

2020

8

令和2年8月10日発行（毎月1回10日発行） 通巻324号

人生100年時代 共生社会の生き方情報誌

とまよおう



さわやか福祉財団

つながろう、心で 広げよう、笑顔の助け合い!

「地域助け合い基金」で

コロナ禍を乗り越えて共生社会へ

「寄付」と「活動」で温かい地域づくりを
進める基金をつくりました

あなたの気持ちを 助け合いの力に活かしませんか?

この基金は、どんな状態になっても、誰もが安心して暮らせるように地域で助け合うための基金です。買い物や食事など生活に困りごとを抱えている方々を助ける活動に資金を提供して、まずはコロナ禍をみんなの温かい心で乗り越え、そして、その助け合いの力が、平時の生活に戻った後も困った時にはいつでも発揮されるように、自由で楽しくてしっかりした地域の助け合い活動を築いていきます。どうぞご寄付・ご支援をお願い申し上げます。

(※お振込先等は本誌16ページをご参照ください)

助け合い社会



公益財団法人

さわやか福祉財団



【ご寄付者様への
感謝状】



●同基金に関する情報は、左のQRコードから財団ホームページもご参照ください。

さあ、言おう

2020年8月号

CONTENTS

2 新しいふれあい社会 実現への道

コロナから考える助け合い

清水 肇子

4 「地域助け合い基金」 状況のご報告

6 「地域助け合い基金」 助成先のご紹介

8 広げよう つなげよう 地域助け合い 活動の現場から

コロナ禍が教えてくれた新たなつながり方

今だからこそ、みんなで考え

できることをやってみよう (群馬県高崎市)

14 看取り・終末期を考える 裏を見せ、表を見せて…

問われる「三密」の功罪

コロナ禍は人の絆を弱めるか? 尾崎 雄

新しいふれあい社会づくりに向けて

● 新地域支援事業・
助け合いの地域づくり

18 北から南から 各地の動き

● その他の財団の活動 など

20 ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナー (賛助会員)・ご寄付者の皆様のご紹介

23 NEWS & にゅーす

⑩「地域助け合い基金」ご寄付のお申し込みについて

⑪「助け合い大全'19」のご紹介

⑫「さあ、言おう」バックナンバーのご紹介

⑬みんなの広場/投稿募集

⑭さわやかパートナー・『さあ、言おう』のご案内/表紙絵から

助け合いを広げよう! 新・ひとりごと ● 伊是名 夏子

コロナから考える助け合い

さわやか福祉財団 理事長 清水 肇子

ウィズ・コロナ、ポスト・コロナなど、新型コロナウイルスと社会のあり方が様々に取り沙汰されている。いったん落ち着いたらと思われた感染状況も、全国で第2波とも思われるほどの拡大の傾向が見られ、大変心配な状況となっているが、こうした繰り返しは今後もしばらく続くことを覚悟しておかなくてはいけないだろう。

ただ、コロナとの共存・共生という訳さればどうもまだしっくりきていないという人も周囲には多い。当分の間、コロナを前提に暮らさざるを得ないことは確かだが、共に認め合って生きるという共生の言葉に込められた前向きなメッセージの響きとは真逆であり、多くの重傷者や亡くなられた方、そして経済的にも大変な被害を受けて生活苦に陥っている方々を思うと口が重たくなってしまう。それは、コロナ禍後の社会の目指す姿が、まだはっきりと見えていない不安からでもあるだろう。緊急時を迎えたとき、平時には予想もできなかったようなスピードで物事が動き、良くも悪くも社会が大きく変わる。ペストの大流行が結果として近代社会への扉を開いたといわれているが、では今回、私たちにどんな社会の選択が残されているだろうか。

コロナ禍は、潜在的にあった日本社会の課題を一気にあぶり出したといわれている。経済至上主義的発想からの転換が遅れ、その経済の足腰が弱ったときのセーフティネットがおよそ脆弱であることが明らかになった。セーフティネットの一番は公的支援だが、当然のことながら膨大なニーズの前には公的資金だけではまったく立ちゆかないことが身に染みて知らされた。その一番のしわ寄せはいわゆる社会的弱者といわれる人たちに、より深刻に集中してきている。つながりが途切れ、自己責任が強く求められ、弱い人はますます切り捨てられて置いてけぼりにされる冷たい社会。そんな将来を誰も望んではいないだろう。

今の事態が20年、30年前に起きていたらどうだっただろうかと、ふと思う。ITの発展ぶりは目覚ましく、そして何より、この数十年で成長してきた市民・住民の活動の存在がある。経済では失われた20年といわれた年月は、人々の価値観を変えさせ、多様な生き方と、それを互いに認め合い助け合うことの尊さも気づかせてくれた。そうして主体的な助け合いが少しずつ全国に発展し、それぞれの地域に根を張った活動が地道に広がっていったからこそこの今があり、コロナ禍を受けて全国各地で様々な助け合い活動が繰り広げられている。

しかし、その基盤はまだ盤石とはいえない。社会を健全に維持する不可欠な柱の一つとして大きく育てていくことが、託されたポストコロナの大命題ではないだろうか。「誰もがいきいきと暮らし、互いの幸せを自然に喜び合えるような地域を皆でつくる」、そんな参加型の社会が目指す目標となろう。過去の皆さんの熱い情熱と大変な努力に感謝し、私たちも20年、30年後を見据えて、今やるべきことをしっかりとすすめていきたい。

「地域助け合い基金」状況のご報告

5月18日に立ち上がった「地域助け合い基金」。

7月号で紹介した6月25日以降の状況についてご報告します。

6月25日以降も、毎日多くの方からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

◎寄付受付額 109件

646万7200円

このほかに当財団より3千万円を供出

◎助成実行額 95件

1214万5650円

(7月15日 当財団ホームページ開示時点)

いただいたメッセージも、7月号で紹介したメッセージと同様に、「コロナは、強敵だが、家族、知人、社会とのつながりまでは奪う事はできず、多

くの人は、その大切さを思い出したのではないでしょう。つながりの大切さを継続できるよう、ふれあい社会の実現に応援したい」「心の距離が離れない(より近づく)地域づくり」など、コロナに負けず地域共生社会の実現を後押しするものに加えて、当財団の活動を応援していただくメッセージもいただき、大変心強く感じています。匿名をご希望の方もおられ、ご紹介できないのは残念ですが、多くの各界における著名な方からも基金に賛同し、ご寄付をいただきました。支援する地域を指定された方は、未だ少数ではありますが、これから、ご寄付をお考えの方はぜひ、支援したい地域を思い描きながらご寄付いただきたいと思います。

助成については、連日、全国の助け合い団体から応募をいただいています。助成を実行させていただきます。

いた95件の内容を見ると、約6割が法人格を有さないグループへの助成となりました。全国で、小規模でも住民主体で助け合い活動に励んでいらっしゃる皆様をできるだけ数多く支援していきたいと考えています。

助成の対象となる活動は、Ⅰ（コロナ禍対応助成）：コロナ禍により被った助け合い活動の被害額の支援）が24件、Ⅱ（同：コロナ禍により生じた生活上の不便・不安を解消するための助け合い活動）が40件、Ⅲ（共生社会推進助成：地域の助け合いを維持・発展する活動）が31件となりました。

前回の報告と比べるとⅢの割合が高まっています。コロナ禍の状況は引き続き予断を許しませんが、助け合い活動全体としては、徐々に前を向いた動きが出ているのかもしれませんが、助成のご応募は随時受け付けています。できるだけ迅速に対応いたしますので、積極的にご検討下さい。

当財団は、共生社会の実現を目指して長期にわたって取り組んでまいります。寄付のお申し込みや助

成の募集内容についても随時見直し、より良いものとしてまいりますので、引き続き皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。（事務局長・内田）

なお、当財団ホームページでは毎日、寄付と助成金額を開示しており、助成可能な金額も一覧できますので、寄付や助成をお考えの方は参考にしてください。

●基金に関する情報、および
クレジットカード決済は、
QRコードもご利用ください！



クレジットカード
決済ページ



財団ホームページ内・
基金関連ページ

基金に関する
ご意見・お問い合わせ

＜地域助け合い基金担当＞

電話：(03) 5470-7751 FAX：(03) 5470-7755

メールアドレス：mail@sawayakazaidan.or.jp

「地域助け合い基金」助成先のご紹介

皆様のご寄付を原資として全国の助け合い活動を支援する「地域助け合い基金」は、これまでで95件の活動をご支援させていただきました（7月15日当財団ホームページ開示時点）。その中から、4件の活動についてご紹介します。

兵庫県神戸市

認定NPO法人

コミュニティ・サポートセンター神戸

助成金額 10万円

コミュニティ・サポートセンター神戸では、コロナ禍が拡大する中で神戸市内の居場所を対象に緊急アンケートを実施しました。その結果、8割の居場所が活動を休止しており、連絡がつかない利用者もいることがわかったため、5月1日から29日まで、市内5つの居場所の協力も得て、電話を使つての「10分ふれあいコール」を開設しました。期間中58件のコールを行い、うち41件が70歳以上の高齢者でした。内容は、近況報告やコロナ禍のご苦勞に関するものでしたが、中にはコーラス活動が中止になってしまったので一緒に歌ってほしいと言われ、

電話越しに和やかに合唱することもあったということです。

「10分ふれあいコール」を行うことで、つながりを保つことができた上、普段、居場所に入りのない方にも情報を伝えることができて、今後の居場所の活用につながる活動にもなりました。活動の実施と分析のための費用の一部を助成しました。

栃木県鹿沼市

菊沢こども食堂 森のこびと

助成金額 15万円

菊沢こども食堂は、鹿沼市内第1号の子ども食堂を開始し、その後5か所の子ども食堂の設立に関わった団体で、貧困家庭への食事と見守り支援や子どもの放課後見

守り教室などを行っています。

菊沢子ども食堂では、貧困家庭が急増する中、シングルファーザーやシングルマザーへの支援、高齢者の生活支援がより一層必要と考え、子ども食堂を通じた配食支援、宅食支援を定期的に行うことを計画し、昨年度から準備を進め、今年度から開始を予定していましたが、コロナ禍により実施が困難となっていました。そこで、当財団の「地域助け合い基金」を活用して、まずは2か月をめどに活動を始動したいとのことです。食材費と光熱費の一部を助成しました。

京都市

「農園倶楽部」 にこここオレンジカフェいわくら

助成金額 15万円

にこここオレンジカフェいわくらでは、医療・介護従事者、および地域住民・ボランティアの協力のもと認知症カフェを毎月開催していますが、コロナ禍によりカフェ開催や本人ミーティングなどの活動を自粛せざるを得なくなり、開催の再開を模索している状況にありました。

その中で、3密を避けながら、フレイル対策・交流の機会をつくるため、4月末より「農園プロジェクト」をスタートさせました。認知症の方だけでなく、自宅待機を余儀なくされている高齢者にも声かけし、毎週畑に集まって、自分のペースで農作業を楽しみながらつつながりな深め、近所の学生や児童館とも協働しながらすすめています。農機具等の備品や、腐葉土・肥料・苗等の購入費などを助成しました。

岩手県盛岡市

ゆざわの森カフェを運営する会

助成金額 10万円

ゆざわの森カフェを運営する会では、第2層生活支援コーディネーターとつながりながら地域の認知症高齢者のための認知症カフェの運営、広報誌の発行や認知症高齢者と子どもたちの交流の場の提供などの認知症高齢者と地域住民をつなぐ活動を行っています。活動再開のための消毒スプレーやマスク、使い捨てコップ等の感染防止用品や会場費、送迎費用などの一部の支援を行いました。



コロナ禍が教えてくれた新たなつながり方

今だからこそ、みんなで考え

できることをやってみよう

群馬県高崎市

コロナ禍、住民活動がストップしてしまった間でも、既存の活動でできることを探し、いろいろなネットワークを活用して、新たな気づきとつながりをつくっている高崎市の今を紹介します。

高崎市第1層生活支援コーディネーター
さわやか福祉財団新地域支援事業担当リーダー 目崎 智恵子

群馬県高崎市は人口約37万人の中核市。2015年度から生活支援体制整備事業を開始して、5年が経とうとし

ている。第2層協議体は26地区立ち上

がり、立ち上げ当初より毎月協議体会議を開催している。今回の新型コロナ

感染症拡大に伴い、居場所やさまざまな支え合い活動もほとんどできなくなつてしまった。そのような状況でも、住民はいろいろな考えを持ち寄り、時には専門職と共にできることを模索、この3か月活動してきた。

地域の居場所を続ける思い
共生型居場所「八起き」

新型コロナ感染症拡大に伴い、4月は1か月お休みした居場所「八起き」。

5月14日の緊急事態宣言解除を受け、居場所再開に向け動き出した。4月28日に居場所の運営を支えている「地域支え合いサポーター」が、敷地内の屋根付きスペースに集まり、今後の居場所運営について会議を行った。数名のサポーターからは、「もう少し様子を見たほうがよいのでは」との声も上がる中、代表の平児玉安雄さん（75歳）は「一度止めてしまえば、また立ち上げるのは大変だ。5月連休明けから居



「八起き」の入り口

場所を開ける。やっと毎回来るようになった男性が、行く場所がなくなり引きこもってしまうから。サポーターさんも無理なく、協力できる人からでいいので」と声をかけ、再開に向けて動き出すことになった。そして、居場所の入り口には手



再開に向けたサポーター会議



「八起き」代表の平児玉さん

洗い用の水が入ったタンクを設置、コロナ感染予防対策の注意事項を書いた貼り紙をして、感染予防を徹底し、サポーター2人から再開した。再開初日は男性が1人やってきた。「ここが開いていてお話ができてよかった」とうれしそうに語っていた。1人でもこの場所を必要と感じている人がいる限り、できる範囲で継続していこうとする住民の熱い思いに感動した。

八起きは、八幡地区の第2層協議体で話し合いを重ね、ニーズ調査の結果から、真のニーズは、住民同士の信頼関係ができた後少しずつ出てくるものと気づき、まずは関係づくりの場として「歩いて行ける場所に居場所をつくらう！」となり、各自治会内に居場所づくりをすることになった。

この八起きがある下大島町内会は、空き家を活用し共生型居場所を立ち上げた。さまざまな人が集い、住民ので



コロナ禍以前の「八起き」の様子

きることから、ちよっとしたお手伝いや無償のボランティア活動も始めている。高崎だるまの工房が多いこの地区の特徴から、地域の資源である元だるま工房を活用してできた居場所です。平児玉さんが区長をされていた頃、今は亡きこのだるま工房のご主人が「男の居場所ができたらいいな」と言っていた

たことを思い出し、ご主人の息子さんに相談してご厚意で借りている場所である。息子さんもそろそろ定年を迎え、この自宅兼工房も使うかもしれないし、平児玉さんの年齢からすると、新たに違う場所が始めることができるか不安があった。だが、この地域に人と人がふれあい、お互いさまで助け合う居場所が必要なことを地域住民が実感している。今回のコロナ拡大により、外出自粛生活を送る中ではあるが、みんなので知恵を出し合い、協力しながら居場所を継続している。

***みんなでつながろう！
のうめんプロジェクト***

「よってきない！ 元気な農園」

「よってきない！ 元気な農園」は、男性3人組が遊休農地を活用し、高齢者の健康増進、いきがいつくり、買



畑にある小屋でちょっと休憩

物や食事支援を目的として昨年の夏から始めている。定年退職後の高齢者に呼びかけ、誰でも気軽に参加でき、助け合いが広がるような仲間づくりも行っている。

この農園の立ち上げは、このエリアの第2層協議体「なのはな協議体」で、地域の困りごと調査を行い、高齢者の

「元気な農園」 6月末の収穫祭の様子



引きこもり（特に定年後の男性）、買
い物や移動に困っている人がいるとわ
かったことがきっかけ。さらに、資源



把握や周知活動を行う中で、担い手と
なる男性の社会参加の場が必要で、資
源としての遊休農地がたくさんあり、
地主は耕作を希望していることもわか
った。農業ならば男性も参加しやす
いだろうと考え、まずは協議体メンバ
ーでもある男性有志3人でこの農園を開

*のうめんプロジェクト… 農業×MEN（男性たち）＝
のうめん。遊休農地を活用し、男性の社会参加・介護予
防、仲間づくりの場として農業を行うプロジェクトで、
今後、高崎市内に広がっていく予定。女性はもちろん、誰
でも参加OK！

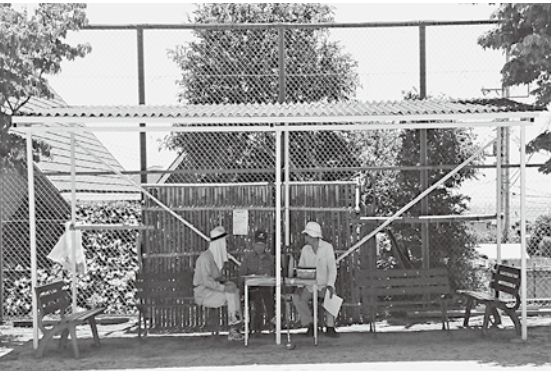
始することになった。みんなが休憩し
たり話をしたりする小屋も造り、少し
ずつ野菜作りを始めながら、参加者を
募る活動としてまずは今年3月末に、
じゃがいもの種芋植えを行った。参加
者は高齢者と近所の小学生。コロナ感
染拡大で学校が休みになり、なかなか
外に出かけられない小学生がお母さん
と一緒にマスクをして参加してくれた。
畑作業のため3密も避けられ、介護予
防、社会参加、人と人との交流の場と
なっている。最近では、近くの整肢療
護園や配食サービスを行っている事業
所、介護保険事業所などに低価格で野
菜の販売もできるようになり、活動継
続に向けて良い循環が始まっている。
子どもも認知症の方も、誰でも参加で
きる場所だ。緊急事態宣言も解除され、
6月末にはじゃがいもの収穫祭を行っ
た。梅雨空が続いていたが、収穫祭の
日だけは太陽の日差しいっぱいの一

となり、まるでおひさまが「頑張れ！」とエールを送っているように感じた。みんなの笑顔がまぶしかった。

町内会で始まった 有償ボランティア活動

「王塚おたすけセンター」

高崎市金古町にある王塚町内会は、昨年4月から、住民が安心して暮らせ



公民館の敷地内にみんなで造った東屋。
ちょっとしたふれあいスペースになっている

るまちづくりを目指し、住民士の有償の助け合い活



王塚町内会の会長、
神崎さん

動「王塚おたすけセンター」を立ち上げた。当面は高齢者世帯、一人暮らしの高齢者等の困りごとの解決に向け、活動を行っている。このセンターの特徴として、生活保護世帯や困窮者の支援に対しては、町内会から奨励金を出す仕組みとなっている。現在、コロナの影響で町内会行事等がほとんど休止になっているが、おたすけセンターは今年度に入ってから活動を休まず行っている。依頼内容は、除草や網戸の修理のような屋外でできる活動をはじめ、鍵の修理や家の中に入る活動もあり、マスクを着用して身体的距離等に気をつけながら作業を行っている。しかし、

町内で行っているいきいきサロンや筋トレ教室等はほとんどできなくなり、気持ち減入っている人が多くなっていた。そこで、民生委員や筋トレ教室の代表者、町内の3役が集まり、今後、集まりの場の活動をどうしていくか話し合った。参加者からは「何でもダメじゃなくて、できることをやるう」という意見が出て、7月からサロン活動を再開した。町内会長の神崎義明さん

(74歳)は話す。

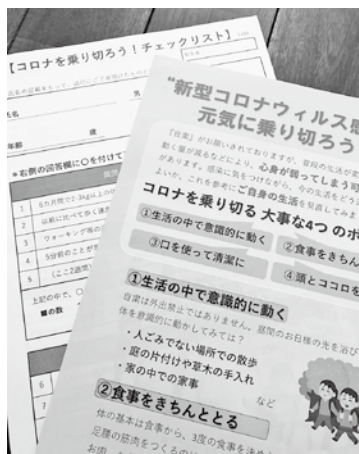
「町内の皆さんから、おたすけセンターができて住みよい町になったという感謝の声も聞かれるようになってきました。おたすけセンターは、男性の社会参加の場となっていて、皆さんいきいきと活動しています。コロナ禍になる前にすでに生活支援のサポーターを養成し、お互いさまで助け合うちょっとした生活支援を行うためにチケット制の助け合い活動を計画していたので、

大学との連携で アンケート調査から支援へ

時期を見ながら始めていく予定です」

コロナ禍において、高崎健康福祉大学理学療法学科の篠原智行准教授は「新型コロナウイルス感染症予防の生活が地域高齢者に与える影響の実態調査と支援活動について」という研究を行った。高齢者あんしんセンター（高

崎市の地域型地域包括支援センター。第2層生活支援コーディネーターの役



調査で配布したパンフレットとチェックリスト

割も担う）や民生委員などの支援者に調査結果をフィードバックし、フレイル等のハイリスク高齢者がいれば見守りなど必要な対応を強化することで、フレイルの予防や進行を最小限にしたと考え、調査を行ったものだ。

調査は、あんしんセンターと民生委員、生活支援コーディネーターが協力し、5〜6月にかけて実施した。住民一人ひとりに電話連絡後、感染予防下の生活における心身や生活に関する啓

蒙パンフレット（健康維持の一助にする）、フレイルのチェックリスト（アンケート用紙）等の資料をポスティング。アンケートに記入し、返信用封筒で大学に直接送り返してもらい、大学で集計。自分でアンケート用紙に記入できない方には、ヒアリングで調査を行った。その結果、2073人に配布し1165人よ

り回収、うち124人がフレイルの状態であることがわかった。そのうち、コロナ禍による生活への影響が著明であると確認された48人に対しては、担当しているあんしんセンターや民生委員が見守りなど必要な対応を強化する支援につながっている。今後、この活動を協議体で共有し、地域の助け合い活動にもつなげていく。

* * *

高崎市は、毎月協議体会議を行い、地域情報の共有から住民でできることを探し、そして支え合い活動を創出している。協議体のネットワークを活用して、コロナ禍でもできる小さな活動もたくさん生まれてきている。これからもみんなで思いやりの心を大切に、今だからこそできること、そして今ある地域の助け合い活動を継続、広げていくことを大切に、心一つにして頑張っていく。目指せ、ワンハート！

看取り・終末期を考える

裏を見せ、表を見せて…

問われる「三密」の功罪

コロナ禍は人の絆を弱めるか？ 尾崎 雄

「ボランティア」。これが助け合いを意味するキイワードとして定着したのは阪神淡路大震災からだ。当時、新聞社にいた私は震災勃発と同時に神戸市に飛んだ。長田区に辛うじて焼け残った高齢者ケアセンター「ながた」を足掛かりに取材をする。外は陽が照りながら粉雪が舞う学校の教室や体育館の避難所を訪れると、まるでアフガニスタンの難民キャンプのようだった。そこを市民グループが巡回して虚弱な高齢者を見つけ出し、「ながた」に一時収容したあと安全な県外の施設に送り届けていた。

そんなボランティアらと寝食を共にした私は、その様子を新聞に載せた。そのとき知り合った介護職のリーダーとの絆は震災後も続く。「ながた」の中辻直行施設長

(当時)はその後、医療者と市民を巻き込んだ支援ネットワークを組織した。佐賀県から駆け付け付けた寿楽園の鹿毛幸広施設長(同)は東日本大震災にも出動した。支援が届かぬ僻地に拠点を設け、高齢者の生活を1年も続けた。残念ながら二人とも若くしてなくなつたが、彼らの遺業はそれぞれの未亡人が継いでいる。800人も職員・高齢入居者を抱える寿楽園は新型コロナウイルス感染症の感染者は一人も出していない。

東京都江戸川区の「コロナ」感染者数は人口10万人当たり34・4人(7月20日現在)と東京23区内で最も少ない。コロナ不況による自殺者の増加が懸念されるなか4月の自殺者はゼロ、5月は6人と前年の同じ時

期より減っていた。都内初のドライブスルーPCR検査を実施したり、区独自の中小企業支援制度を設けたりするなど対策に力を入れたためだが、江戸川区ならではの絆の強さを見逃せない。区民によるコロナ対策支援寄付金は5900万円も集まり、飲食店を支援するクラウドファンディングは1630万円と目標額の3倍に達した。「お祭りが盛んな江戸川区は助け合いも盛んです」と斉藤猛区長は胸を張り、「人と人のつながりの大切さが見えてきた」と自負する。

いっぽうで首相や都道府県知事らは「人と人のつながり」を断つ「三密」生活を求めている。それが新型コロナウイルス感染の拡大を阻む近道だとしても、それによって地域の絆が結び、コミュニティ崩壊を招けば本末転倒だ。はたして、それでいいのだろうか。日本福祉大名誉教授の二本立氏は『文化連情報』7月号で、こう述べる。

保健所と医療機関・医療者の献身的

な活動と「医療崩壊」の危機が連日のように報じられたため、国民はコロナ罹患の危険と保健、医療の重要性、国民皆保険の大切さを「肌感覚」で実感するようになりました。(略)医療者に感謝したり応援する市民の自発的動きが全国津々浦々で起こっています(『コロナ危機は中期的には日本医療への「弱い」追い風になる』)。東日本大震災でいっとき高まった国民の社会連帯意識は長続きしなかったけれど、今回は「肌感覚」によって定着するのではないか。江戸川区の事例は「コロナ効果」がプラスに働いていることを示しているようだ。

川崎市内の会社員が近隣の子供たちと一緒に遊ぶ「おやじ連」ネットワーク活動を26年も続けてきた大下勝巳さん(78歳)は「コロナ禍によって地域社会における人のつながりと絆の大切さを深く考えるようになった」と。人間の触れ合いを妨げる「三密」排除は、むしろ人と人との心の距離を縮め、絆を強めるきっかけになるはずだ。

「地域助け合い基金」ご寄付のお申し込みについて

1. 寄付金の使途

共生社会を推進するため、助け合い活動の支援に活用させていただきます。

助成の対象は、地域で暮らす人同士の助け合い活動であり、新たに団体を設立する場合のほか、新たに活動を広げる場合やコロナ禍に対応して特別な助け合い活動を行う場合も含まれます。

高齢者、子ども、認知症、障がい、生活困窮の方々、刑余者、外国人、ケア家族の支援他、分野は問いません。ただし、日本国内の活動に限ります。

2. 税制上の優遇措置

当財団にいただいたご寄付は、税制上の優遇措置の対象となります（当財団発行の領収証が必要となります）。

3. ご寄付の方法

(1) 銀行振込によるご寄付

三井住友銀行 浜松町支店（普通）口座番号 7859452

三菱UFJ銀行 浜松町支店（普通）口座番号 0095446

（口座名義 ※いずれも同様）

公益財団法人さわやか福祉財団 地域助け合い基金

※銀行お振り込みの場合は、送金者の情報がカタカナ表記のお名前のみとなるため、当財団発行の領収書が必要な場合や地域の指定をご希望の場合は、お手数ですが「寄付申込書」を当財団宛お送りください。当財団へのお電話でも承ります。

(2) 郵便振替によるご寄付

（口座記号番号） 00110-7-709627

（加入者名） 公益財団法人さわやか福祉財団

※通信欄に、ご指定がある場合の市区町村名（区は東京都の特別区）と、ひと言応援コメントなどをご記入ください。

※手数料不要の振込取扱票をご用意していますので、お申し出いただければ郵送いたします。

(3) クレジットカードによるご寄付

右のQRコードもしくは

当財団ホームページよりお申し込み下さい。



助成応募については、当財団ホームページをご参照ください。2020年8月時点の内容です。「寄付申込書」「パンフレット」なども、ホームページからダウンロードできます。

<寄付・助成のお問い合わせ>
地域助け合い基金担当

電話：(03)5470-7751 FAX：(03)5470-7755
メール：mail@sawayakazaidan.or.jp

新しい ふれあい社会づくりに 向けて

いきがい

ふれあい

助け合い

さわやか福祉財団は、子どもから高齢者まですべての人が、
それぞれの尊厳を尊重しながら、いきがいをもって、
ふれあい、助け合い、共生する地域社会づくりを一貫して進めています。
特に現在は、全国自治体が新地域支援事業で取り組んでいる
住民主体の助け合いの地域づくりを強力に支援しています。
どうぞ、皆様の地域の情報もお寄せください。

● 新地域支援事業・助け合いの地域づくり

北から南から 各地の動き

● その他の財団の活動 など

ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナー（賛助会員）・

ご寄付者の皆様のご紹介

NEWS & にゅーす





新地域支援事業・ 各地の動き

(2020年6月1日～7月1日)

- 全国各地で、
推進の支援をしています
- 活動の一部を紹介しています

生活支援コーディネーター・ 協議体と連携

三芳町(埼玉県)

26日／三芳町の第1層協議体が4か月ぶりに開催され、当財団もオブザーバー参加。コロナ対策として、感染予防を行い、時間も短縮しての実施となった。コロナ禍での新しいやり方を模索

生活支援コーディネーター・ 養成研修等に協力

山梨県

するための意見交換を行い、「制限がある中でも、どうしたら活動を再開できるのかを皆で話し合うことが大切」など前向きな意見も多かった。これを受けて生活支援コーディネーターから、「コロナ禍の中での活動のあり方について事例等をまとめた提言書を第1層協議体にて作成し、住民に呼びかけを行うのはどうか」との提案があり、部会にて素案を検討することとなった。

(岡野)

9日／今年度、山梨県から依頼を受けて当財団が生活支援体制整備事業に関わることになり、同県庁を鶴山と訪問。同県では、支援を希望する市町村に対して個別アドバイザー派遣事業と、生活支援コーディネーター養成・スキルアップ研修を実施する予定となっており、同県のさわやかインストラクター

や、助け合い推進パートナーとして共に助け合い地域づくりを推進してきた生活支援コーディネーターにも声をかけ、これらの事業の進め方と推進体制等について意見交換を行った。

30日／7月1日／県のアドバイザー派遣事業で、個別支援に手を挙げた11市町村のうち、当財団は9市町村に関わる予定。この2日間は、上野原市、甲斐市、甲州市、中央市、山梨市、忍野村に対し、支援1回目として各110分の個別面談を実施した。それぞれの取り組み状況や課題を受けて、財団からは事業の目指す方向や生活支援コーディネーター・協議体の役割などを共有しながら、南アルプス市の第1層生活支援コーディネーター斉藤節子氏と第2層生活支援コーディネーターの小林陽一氏からも実践に基づくアドバイスを行い、自治体に気づきを得てもらう時間となった。各自自治体は、この面談を受けて具体的な取り組み計画を立て、動き出すことになった。

(川田)

『助け合い大全'19』

昨年9月に開催した「いきがい・助け合いサミット in 大阪」のすべてを収録した『助け合い大全'19』です。

サミットでの全体シンポジウムと各分科会における発言要旨をまとめた『パネル編』、ポスターセッション出展の全作品を掲載した『ポスター編』、そして『提言編』を3冊セットで頒布いたします。助け合い活動、`お互いさま`の共生社会づくりに、ぜひお役立てください！

お申し込みは当財団まで

→ mail@sawayakazaidan.or.jp

1セット2,000円(税込み) 送料別途

※3冊セットのみでの頒布となります。

【助け合い大全'19 提言編 目次】

- いきがい・助け合いサミット in 大阪の意義と特徴
- 全体シンポジウム発言要旨
- 分科会1～54
提言／登壇者／議事要旨
- ポスター展
- いきがい・助け合いサミット in 大阪を振り返って



ポスター編



提言編



パネル編

ご支援ありがとうございます。

さわやかパートナーは、本財団の趣旨にご賛同いただき、財政的・精神的にご支援くださる賛助会員の皆様です。会費は寄付金の一種として大切に活用させていただきます。新規ご入会の会員の方、会員をご継続いただきました皆様も毎号ご紹介いたします。また、個別のご寄付をいただきました皆様もご紹介させていただきます。

(敬称略) (2020年6月1日～6月30日財団受付分) ※なお、自動振替の場合等、処理日と財団受付日にずれが出て掲載時期がずれる場合があります(ご了承ください)。

さわやかパートナー個人(141件)

(都道府県別50音順)

北海道	茨城県	青木 武雄	浅野 克男	片桐 弘之	平野 陽子	後藤 政也	大沢 健	岡 保正
竹内 修一	関 正樹	内村 実佳	小澤 利政	鹿野 哲	平間 嘉子	清野 行雄	出川 益江	富田 妙子
野口 道雄	丹 協子	小関 和夫	坂口 棕治朗	蒲田 尚史	藤井 良子	長島 一道	愛知県	中田 壽子
岩手県	丹 文子	小峰 和夫	鈴木 文雄	倉持 喜久子	保坂 雅宣	西島 康二	深町 聖子	吉村 悦子
小野寺 隆一	平沢 光子	小峰 貞夫	関川 和歌子	小泉 洋子	細矢 博康	服部 恵津子	山田 和男	由村 雅司
島川 敏文	栃木県	佐伯 昌子	高梨 健一郎	佐々木 美智子	升永 英俊	松下 晃久	三重県	兵庫 兵庫県
宮城県	岡本 優子	佐伯 美穂英	森谷 公俊	高澤 秀明	宮部 敬子	吉田 由依	大西 彰夫	今井 幸夫
内海 裕一	川崎 京子	タニツ ケイコ	山崎 正四郎	タミヤクニヒロ	村本 久夫	新潟県	滋賀県	岡田 泰信
河村 憲二郎	菅原 清美	永末 厚二	山崎 百合子	土田 悦子	森 妙子	金子 由美子	梅沢 久子	高橋 威年
渡部 孝雄	高橋 悦子	中村 清子	東京都	戸田 信久	森 達也	河田 珪子	京都府	久恒 千里
山形県	橋本 玲子	三奈木 喜逸	上田 恭子	長吉 多佳子	須田 恒夫	須田 恒夫	北野 愛子	奈良県
佐藤 諠	樋口 茂延	三宅 恭子	宇野澤 虎雄	二宮 弘道	石井 邦夫	富山県	四宮 陽一	久保田 秀樹
福島県	山田 尚美	森戸 伸行	緒方 璋	野口 正二郎	石橋 幸恵	福井県	中川 光郎	平田 京子
鶴川 洋子	埼玉県	山崎 寿子	押切 謙徳	林原 満子	大石 恵子	天谷 まり子	細井 昭	岡山県
					大坪 直子	北畑 英子	細井 昭	氏家 明子
					恩田 實	長野県	石尾 雄幸	谷 敬子
								広島県

角川 克己	香川県	古賀 秀隆
黒木 詔子	原田 典子	匿名希望
長井 和子	松本 林	熊本県
林田 規子	高知県	木下 眞理子
深田 普佐次	寺内 のりよし	大分県
徳島県	福岡県	三重野 通啓
賀山 毅	岩井 順子	鹿児島県
酒井 やよい	角 洋一郎	上野 恭子
坂東 恵子	芳賀 晟寿	富永 泰子
藪内 恭子	長崎県	

さわやかパートナー法人 (20件)

(都道府県別50音順)

任意団体伊勢まごころ
内村物産株式会社
株式会社ザイマックス
NPO法人さわやかたすけあい草加
株式会社シーエスエス
医療法人社団潤康会芝パーククリニック
公益財団法人住友生命健康財団
太平洋工業株式会社
NPO法人たすけあいあさひ
NPO法人たすけあいほっとライフ小川
NPO法人鶴ヶ島なごみ

東友会関東支部ボランティア部会
株式会社八洋
ピーアークホールディングス株式会社
日立金属株式会社
NPO法人ふれあい福祉の会山びこへるぶ
NPO法人まごころサービスイ見センター
三菱重工工業株式会社
山崎製パン株式会社
有限会社ヤマダ

一般ご寄付 (7件)

(都道府県別50音順)

有賀 一三 (3万円)
高橋 愛子 (2万円)
株式会社八洋 (50万円)
平野 陽子 (3千円)
ボランティア・ベンダー協会 (54万9231円)
松原 彰雄 (1万円)
さわやか福祉財団有志 (5千円)



地域助け合い基金ご寄付 (81件)

(ご寄付日付順)

匿名希望 (10万円)
浜本 英輔 (1万円)
菊池 ゆかり (3万5200円)
有限会社ジエイティエム (10万円)
蒲田 尚史 (10万円)
石井 義高 (20万円)
匿名希望 (10万円)
匿名希望 (20万円)
酒井 豊子 (20万円)
木藤 繁夫 (5万円)
千葉 春彦 (2件・5万円)
小池 信行 (10万円)
匿名希望 (20万円)
鶴田 六郎 (10万円)
山田 尋志 (10万円)
中村 秀一 (10万円)
匿名希望 (3万円)
匿名希望 (2万円)
鈴木 美智子 (1万円)
岡村 紀男 (5千円)
塚田 進一 (5千円)

匿名希望 (1万円)
林 達哉 (3万円)
匿名希望 (1万円)
為ヶ谷 喜一郎 (10万円)
匿名希望 (3万円)
高梨 健一郎 (1万円)
洲崎 一雄 (3万円)
小関 和夫 (3万円)
オオツカ マサタニ (3万円)
加藤 照雄 (1万円)
小津 博司 (10万円)
匿名希望 (3万円)
滝口 健次 (5千円)
天野 武和 (1万円)
匿名希望 (7千円)
二井矢 道生 (1万円)
匿名希望 (10万円)
白井 哲三郎 (1万円)
林 修 (10万円)
林 美代子 (10万円)
税理士法人出家会計事務所 (20万円)
河村 憲二郎 (10万円)
原 勝則 (10万円)
鳴瀬 洸 (1万円)
加藤 孟 (3万円)

米田 俊子 (2万円)
山出 哲史 (10万円)
菅野 忠雄 (2万円)
妹尾 信二 (10万円)
大前 直子 (10万円)
山元 友紀子 (3千円)
匿名希望 (2万円)
金平 輝子 (1万円)
匿名希望 (3万円)
山崎 トヨ子 (3千円)
医療法人勝久会 理事長 木川田 典彌 (10万円)
セキジュンコ (1万円)
匿名希望 (1万円)
匿名希望 (1万円)
岡 保正 (7千円)
イノウエ トシノブ (3千円)
匿名希望 (3千円)
岩屋 和枝 (5千円)
匿名希望 (10万円)
匿名希望 (10万円)
金澤 勉 (1千円)
カタヤマ イクヨ (1万円)
トダ キミアキ (1万円)
鈴木 ゆかり (10万円)
嵯峨野 京子 (1万円)

仙崎 礼次郎 (1万円)
箕輪 千秋 (1万円)
匿名希望 (10万円)
匿名希望 (2万円)
但木 敬一 (10万円)
匿名希望 (5万円)
ナカザワ ミツオ (5万円)
匿名希望 (10万円)
木下 淑子 (3万円)



NEWS

& にゅーす



令和元年度（2019年度）

決算が承認されました

2019年度決算速報

期末指定正味財産

28億4267万9715円

期末一般正味財産

8億4350万7668円

6月3日に理事会、22日に評議員会を東京都港区のメルパルク東京にて開催しました。主な議案は、令和元年度事業報告並びに決算の承認です。3月に開催した理事会同様に、新型コロナウイルス感染症対策として、一部の評議員、理事、監事はウェブ会議システムを利用して出席しました。

理事会、評議員会ともに、まず堀田力会長が、新型コロナウイルス感染症の拡大により助け合い活動が影響を受け、多くの団体で活動を休止せざるを得ない状況にあったことから、当財団では緊急アンケートを実施し、結果を踏まえて5月に「地域助け合い基金」を立ち上げた経緯について説明し、当財団として、共生社会の実現を目指すべく長期にわたり取り組んでいくと説明しました。

続いて清水肇子理事長が、令和元年度の事業報告と決算について説明しま

した。まず、事業の報告について、令和元年度は新地域支援事業が始まって5年目に当たり、生活支援の体制づくりは一段と進み整備されつつあること、全国の生活支援コーディネーターや協議体関係者と緊密な連携を保って活動を展開した結果、全国で住民が住民主体の考えの下で地域の課題を把握し、助け合いを創出・充実していこうという取り組みが広がってきたこと、特に全国各地で生活支援コーディネーターや協議体関係者が働きかける居場所・通いの場や、有償ボランティアによる助け合い活動の立ち上げが広がっていることを報告しました。また、9月9日（月）、10日（火）に「いきがい・助け合いサミット in 大阪」を3000名を超える参加者を得て開催し、全体シンポジウムと54の全ての分科会で提言がまとめられるなど、共生社会の実現に向け大きな一歩となったこと

が報告されました。あわせて、本年9月に予定していた「いきがい・助け合いサミット in 愛知」はコロナ禍の影響で延期するものの、2021年に神奈川県横浜市で、22年には東京において「いきがい・助け合いサミット」を開催するとの報告がありました。また、ふれあい推進事業に加えて、当財団の公益目的事業である、社会参加推進事業、情報・調査事業についても、それぞれ其主要な活動の報告がありました。

新職員紹介

あこがれの財団に入るにあたり

目崎 康浩

60歳の誕生日の翌日、7月13日より入団させていただくことになりました目崎

決算については、新たに頂戴した故伊藤春子様からの遺贈によるご寄付の内容や、3件の遺贈のお申し出があることとの説明のほか、決算内容について詳細な説明がありました。大変貴重なご資産を当財団の理念と活動に共感していただき、遺贈という形で残してくださいました皆様に、厚く御礼申し上げます。理事会、評議員会ともにご出席の皆様から多くの貴重なご意見をいただき、活発な質疑応答の後、両会とも全会一

致で原案通り承認されました。20年度は、理事であった稲葉ゆり子氏が新たに評議員に就任しました。理事、幹事については任期満了による改選が行われ、稲葉氏に代わり当財団事務局長の内田信幸が理事に就任、堀田力会長、清水肇子理事長はじめ理事7名、監事2名の重任が決まりました。なお、事業報告並びに決算報告は、本誌付録および当財団ホームページでもご覧いただけます。(内田 信幸)

康浩と申します。

埼玉県朝霞市役所で福祉畑を中心に長年勤めてまいりましたが、2年前に堀田さんに講演をしていただいたこと、昨年大阪サミットに参加させていただいたことで、ぜひともこの財団の皆さんと仕

事をさせていただきたいと思い、お世話になることになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

かねてから、地域のつながりづくりが自治会町内会活動に委ねられ、高齢化の波が押し寄せている現状を危惧していた

「さあ、言おう」バックナンバー 主な内容のご紹介

2020年7月号



- 巻頭言
「『居場所』の再開と地域の理解」
清水肇子
- コロナ禍を乗り越えて共生社会へ
篠田昭さん、河田珪子さん、
加藤由紀子さん
- 活動の現場から
箱の浦自治会まちづくり協議
会（大阪府阪南市）

- 看取り・終末期を考える 「スウェーデンと『コロナ』
自由な国家個人主義に学ぶ」尾崎 雄

2020年6月号



- 巻頭言
「新型コロナウイルス感染症を
どう乗り越えるか『地域助け合
い基金』と共生社会」清水肇子
- 「地域助け合い基金」でコロナ
禍を乗り越えて共生社会へ
- コロナ禍を乗り越えて共生社会へ
「心をつなぎ、幸せを実感でき
る地域へ」鶴山芳子

- 活動の現場から 地域共生助け合い隊（長崎県諫早市）
- 看取り・終末期を考える
「ソーシャルディスタンスの女王、原節子
自立の素顔を『東京物語』に見る」尾崎 雄

2020年5月号



- 巻頭言
「これからの助け合いをどうす
すめるか」清水肇子
- ダイジェスト いきがい・助け
合いサミット in 大阪2019
- 活動の現場から
コミュニティカフェ「一休さん」
（群馬県高崎市）
- 看取り・終末期を考える
「三屋清左衛門の生き方 老後
の社会貢献を求めて」尾崎 雄

その他の内容 新地域支援事業・各地の動き／さわやか豆知識
／みんなの広場／新・ひとりごと ほか

ところ、さわやか福祉財団の新しいふれあひ社会の理念に賛同した次第です。と書いてみたものの、美味しい焼き鳥と少しのお酒、そして、サザンをこよなく愛するおじさんです。お付き合いのほどよろしくお願いいたします。



心地良い居場所づくりを

岩浅 暁美
いわあさ あけみ

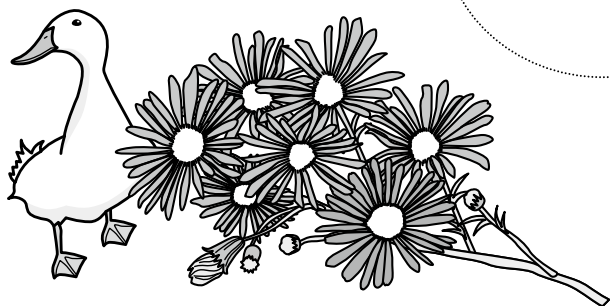
「シェア金沢」の紹介番組を見て、高齢者、若者、障がい者が共存する街並みに関心を持ち、「週刊朝日」連載の『ペコロスの母に会いに行く』に毎週、癒され涙し、テレビドキュメンタリー「ぼけま

すから、よろしく願います。」では、馴染みある呉市での父母、娘の境遇が自分に重なり、認知症の講演会やフレイル予防セミナー、認知症サポーター養成講座に参加するようになりました。すべては、こちらでお世話になることにつながっていたのかもしれませんが。いろいろな人との出会いやつながりを大切にしながら、心地良い居場所づくりのお手伝いをしていきたいです。

◆お問い合わせは広報まで

→ TEL (03) 5470-7751

みんなの広場



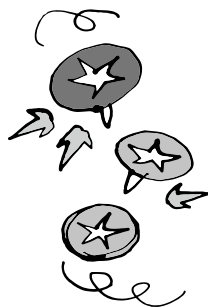
長崎県諫早市の地域共生助け合い隊（本誌6月号「活動の現場から」）の活動内容、6つの理念に感動しました。

自分は何もしていなくて恥ずかしい。一度しかない人生、後悔しなくてもいい人生をこれから歩んでいきたい。諫早市の藤本様に少しでも近づけるように仕事をしていきたい、と思いました。自分の人生、亡くなった後の他人の思い？

前を向いて
後悔しない人生を

匿名希望さん 61歳

岐阜県



人はつながる生き物です

「コロナ禍を乗り越えて共生社会へ」（本誌6月号）を読みました。市内の通いの場（140か所）が、コロナ禍によりピンチ状態に陥っている中悩んでいましたが、この記事で勇気をいただきました。原点に戻り、もう一度頑張ってみます。

コロナ禍でも
もう一度頑張る

滝沢 修身さん 69歳

長野県



61歳は新しい決心に「ピッタリ」の年です

良いように思われなくても大丈夫。とにかく前を向いて歩いていきたいと思えます。





『さあ、言おう』投稿募集

あなたの意見を社会へ生かそう

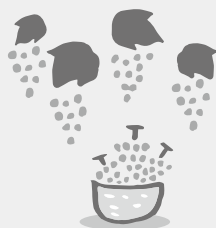
『さあ、言おう』は皆様の声を社会につなげる
問題提起型情報誌です。

ぜひ皆様の声をお寄せください

『さあ、言おう』では、取り上げたテーマに対する読者の皆様からのご意見・ご感想、あるいは普段気になっているテーマに基づいた体験談や提言などを随時募集しています。

常設テーマ

- 地域の助け合い活動について
- 助け合いの地域づくりについて
- いきがい、社会参加について
- 居場所や地縁組織、NPOの活動について
- 新地域支援事業について
- 生き方について など



投稿の方法

- 字数や回数制限はありませんが、掲載にあたっては誌面の都合上、編集要約する場合があります。あらかじめご了承ください。
- 一般投稿は形式は問いません。本誌添付の投稿ハガキなどもご自由にご利用ください（原稿はお返しできません）。
- 投稿は、事情が許す限り本名でお願いします。
ただし、掲載時には匿名、あるいはペンネームの使用も可能ですので、その旨お書き添えください。
- 投稿時には、お名前ほかに、ご住所、連絡先お電話番号をご記入ください（内容により質問させていただく場合があります）。性別、年齢もよろしければお書き添え下さい。大変参考になります。

送付先

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8
日本女子会館7階 公益財団法人さわやか福祉財団
『さあ、言おう』編集部宛
FAX (03) 5470-7755
E-mail pr@sawayakazaidan.or.jp

私たちはふれあいあふれた地域づくりを支援しています

さわやか福祉財団の活動をぜひご支援ください。

『さあ、言おう』はみんなで新しい社会のあり方を考える問題提起型の情報誌です

■さわやか福祉財団の活動をさわやかパートナーとしてご支援ください。

『さあ、言おう』を毎月お手元にお届けいたします。

さわやかパートナーは、さわやか福祉財団の理念と活動に共感して会員としてご支援いただく賛助協力者の皆さんです。

個人
年会費

Aコース 10,000円

Bコース 3,000円

法人
年会費
(1口)

Aコース 100,000円

Bコース 20,000円

公益財団法人さわやか福祉財団の会費は、特別な特典を付与するものではない賛助会費であり、寄付金の一つの形です。

■寄付金は税金の控除対象となります。

さわやか福祉財団へのご寄付は、所得税、法人税等の控除対象となります(所得税の寄付控除額の上限は所得の40%-2000円)。

一般ご寄付を
いただく場合の
お振込口座

口座名義：公益財団法人さわやか福祉財団

郵便払込 00120-9-668856※

三菱UFJ銀行 浜松町支店 普通預金 口座番号3731714

りそな銀行 芝支店 普通預金 口座番号1174297

※手数料不要の専用用紙をご用意していますので申し出いただければご郵送します。

*いずれもお問い合わせは、編集部あるいは社会支援促進チームまでお気軽にご連絡ください。(mail@sawayakazaidan.or.jp)

表紙絵

はり絵・池田げんえい

「どか〜んと、一発！」



編集後記 ●「地域助け合い基金」へのたくさんのご寄付、ありがとうございます。助成のほうも鋭意進めています。QRコードもご利用ください(表紙裏・P4～・6～・16・21)。●ポスト・コロナへ向けた助け合い活動の推進について理事長が巻頭言に書いています(P2～)。●コロナ禍においても、地域での助け合いが住民の思いで続いている群馬県高崎市。心温まる活動、大学との協働をレポートしました(P8～)。●コロナ禍での「三密」の功罪、どう考えますか?(P14～) ●令和元年度決算が承認されました(P23～)。

助け合いを
広げよう!



伊是名
夏子

身長100cmしかない母親の私。

真面目で、几帳面な6歳の子。

愛嬌があり、自由な4歳の子。

わが子二人を見ていると

ひとり一人違っていて当たり前

それぞれの良さがあると気づかせてくれます。

小さいママを愛してくれてありがとう。



●コラムニスト

著書「ママは身長100cm」。骨の弱い障害で電動車いすを使用。ハイリスクな妊娠出産を乗り越え、6歳と4歳の子育てを、総勢15人のヘルパーやボランティアなどこなす。パンダと紅茶、性教育好き。

「おんこ」 8月号

通巻324号 2020年8月10日発行
(毎月1回10日発行)

表紙絵 池田げんえい
イラスト すずきひさこ
福島康子

レイアウト 菊池ゆかり

印刷所 日本印刷株式会社

編集担当 塩瀬潔泉

発行人 清水肇子
発行元 公益財団法人さわやか福祉財団

〒105-0011
東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階
Tel (03)5470-7751 Fax (03)5470-7755

E-mail pr@sawayakazaidan.or.jp

<https://www.sawayakazaidan.or.jp>

Printed in Japan

故人への感謝を込めて

思恩忌を執り行いました



梅雨寒の7月15～17日の3日間、例年通り当財団で思恩忌を執り行いました。

思恩忌は、当財団に遺贈のご支援をお寄せいただいた故人の皆様にあらためて感謝し、そのご遺志を確認させていただくもので、毎年、東京のお盆時期である7月中旬に行っています。

当財団の「新しいふれあい社会の創造」の理念に強くご賛同いただき、大切な資産を遺贈してくださいました皆様のお気持ちに感謝を申し上げ、ご冥福をお祈りいたします。

当財団は現在、全国各地でふれあい・助け合いを広め、コロナ禍にあっても誰もが最後まで安心して自宅で暮らせるよう、助け合いの地域づくりを強力にすすめております。

ご遺志にしっかりと報いるよう、これからも全国の皆様と共に活動をすすめてまいります。